

日 時 平成27年9月10日(木) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 北山一衛	2番 三上廣大
3番 高橋美紀子	4番 今大介
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 工藤和行
9番 大久保朝泰	10番 大溝雅昭
11番 工藤和子	12番 福士幸雄
13番 工藤俊広	14番 村上啓二
15番 中田博文	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 有 馬 喜代史
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 奈良岡 和 保	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	政策連携推進監兼 政策連携推進室長 種 市 齊
総 務 課 長 阿 保 正 一	秘 書 課 長 木 川 一 雄
企 画 課 長 千 葉 毅	財 政 課 長 鈴 木 正 人
福祉総務課長 鎌 田 幸 男	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 中 田 憲 人
商工観光課長 幾 田 良 一	都市建築課長 真 土 亨
農業委員会会長 木 立 康 行	選挙管理委員会 委 員 長 乘 田 兼 雄
選挙管理委員会 事 務 局 長 山 谷 博 文	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 委 員 長 村 上 良 子	教 育 長 阿 保 淳 士
教 育 部 長 兼 市民文化会館長 玉 田 純 一	教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長 齋 藤 有
社会教育課長兼 青少年相談センター長 駒 井 昭 雄	文化スポーツ課長 成 田 秀 範

黒石病院  
事業管理者 柿崎武光

黒石病院  
事務局 局長 小林清一郎

黒石病院  
事務次局長 村上靖

## 会議に付した事件の題目及び議事日程

平成27年第3回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成27年9月10日(木) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

## 出席した事務局職員職氏名

事務局 局長	長谷川 直伸
次 長	三上 亮介
次長補佐兼議事係長	村元 裕
主 事	櫛引 亮兵

## 会議の顛末

午前10時02分 開議

◎議長(北山一衛) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

---

◎議長(北山一衛) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

6番佐々木隆議員、13番工藤俊広議員を指名いたします。

---

◎議長(北山一衛) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

4番今大介議員の登壇を求めます。4番今大介議員。

登壇

◎4番(今大介) 皆様、おはようございます。自民・公明クラブ、今大介です。

黒石の短い夏祭りも終わり、季節はまさに収穫の秋に向かっております。天候に恵まれたことは、水稻・リンゴともに期待できる収穫かと望んでいるものであります。ことしから作付された青天の霹靂は、食味や所得向上面で農家の方々が大変期待しているところであり、本市においても作付拡大につながるよう願っている一人であります。

さて、先月開催されました、開かれた議会運営を目指した議会報告会も無事終わりました。約30名の市民の方々と意見交換ができ、新人議員に対する激励のお言葉をいただき感謝申し上げ

げます。引き続き市民の負託に答えられるよう、全身全霊で頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従い質問させていただきます。

初めに、観光政策について質問させていただきます。

1つ目は、観光と食のあり方についてであります。

市街地の観光施設が整備され、点と点から面へと結びつけられるような時代に入り、また、昨年、県内で初めての地酒による乾杯を推奨する条例が制定されるなど、取り組みは評価しておりますが、酒にはさかなが必要かと考えております。

そこで、観光と結びつける黒石らしい食の開発をどのように進めようとしているのかお尋ねします。

2つ目は、関東圏での観光PRについてであります。

先月、創立45周年で東京黒石会の方々とお話しさせていただきました。その中で、東京黒石会の方々が関東方面でよされやねぶた等の黒石のPRをしているが、市のかかわりが薄いように感じられます。

そこで、関東方面における観光PRをどのように図ろうとしているのかお尋ねします。

次に、魅力あるまちづくりについて質問させていただきます。

1つ目として、地区協議会との意見交換会の状況についてであります。

市長の公約の中に、「小さな行政を念頭に、地区連絡協議会とともに住民サービスの向上に努める」とあります。私も市民参加型の黒石づくりのために、現場主義に徹した市民目線での活動を図りたいと考えております。

そこで、参加者からどのような意見が出されたのか、あわせて、参加状況はどうであったのかお尋ねします。

2つ目として、地区協議会との意見交換会の今後のスケジュール等についてであります。

地区から出された意見にどのような対応を考えているのかお尋ねします。また、次年度に向け、どのようなスケジュール等を考えているのかお尋ねします。

最後に、農林産業の活性化について質問させていただきます。

第1次、2次産業に続いて、農家所得向上を考えると6次産業の開発は必要不可欠と感じております。しかしながら農家の現状は、今以上の手間を費やすことはできないと思うことから、現在生産している物で考えられないだろうか。流通や販路等は専門家に任せ、農家は継続生産に努めるなど開発までのフローを農家に求めるのは難しいと思います。

そこで、市としては農家の手助けのためにどのような進め方をしているのかお尋ねします。

以上、質問いたしますが、理事者の懇切丁寧なる御答弁をお願い申し上げまして、壇上から

の質問とさせていただきます。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 今大介議員にお答えいたします。私からは、魅力あるまちづくりについての地区協議会との意見交換会の状況についてと、地区協議会との意見交換会の今後のスケジュール等について答弁させていただきます。

私は、昨年の市長就任以来、市民参加型の市政を目指し、各地区協議会長を初め各種団体との意見交換を進めてまいりました。その結果、子供会、老人クラブ、婦人会といった各種団体の抱える課題の解決には、1つの組織ではなく地域全体で話し合うべきではないかという考えに至りました。そのため、地区の将来に向けた建設的な意見交換と課題の洗い出しを目的に、市長と地区協議会との意見交換会を6月16日から7月17日の間、市内10地区の公民館・地区センターで開催し、各地区の協議会役員や町内会長など延べ221人の参加をいただき、活発な議論を行いました。

その中では、少子高齢化が進み各種団体への参加者が減少していること、雇用の確保、子育て支援の充実、通学路の安全確保、空き家対策、町内会長の負担軽減、地区要望の早期実現、防災対策の必要性など多数の貴重な意見をいただきました。意見交換会でいただいた御意見は、地区要望に含めるべき内容のものにつきましてはそちらへ含めるようお願いし、それ以外の共通課題は今後の市政に生かせるよう現在検討を重ねているところであります。

具体的には、自主防災組織などの地区ごとの防災体制の構築、地区要望の取り扱い見直し、町内会長向けマニュアルの作成、各種事業に係る説明会・情報提供の充実、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定などについて取り組んでおります。

また、来年度以降も市民との対話の継続と市職員の資質向上を目指して、地区との意見交換会の年1回程度の定期開催についても検討いたしております。今後とも市民参加型の市政実現に御理解と御協力をお願い申し上げます。その他につきましては、担当部長より答弁させます。

降壇

◎議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、観光政策に関して、観光と食のあり方について、それから、関東圏での観光PRについて、それと、農林産業の活性化についての6産業化の進め方についての3点についてお答えいたします。

まず、観光と食のあり方についてでございますが、乾杯条例を制定して観光と地酒に合うような食の開発は考えているのかという御質問でございますが、黒石市地酒による乾杯を推奨す

る条例は、平成26年10月に施行されました。今年度、条例の趣旨を理解し協賛してくれる地酒を取り扱っておられる事業者等を対象に、店頭旗やシールを配布し、条例の周知及び乾杯を推奨しているところでございます。議員御指摘の観光と地酒に合うような食の開発につきましては、市は直接開発等には取り組んでございませんが、民間有志において地元産のものを活用した日本酒に合う商品開発を試験的に取り組んでいる例があると伺っております。

市といたしましては、今後、日本酒条例サミットin京都2015へ参加し、参加後の結果を参考に、観光や食のあり方について地元事業者の活用や事業者間のマッチングの可能性などを研究してまいりたいと考えております。

次に、関東圏での観光PRについてでございますが、市として、これまで関東圏での観光PRにつきましては、公益社団法人青森県観光連盟が主催する観光PRキャラバンへの参加などが主だった活動となっております。

関東圏の団体とのかかわりについてでございますが、これまでも市では都内で懇談の場を設け、首都圏在住の当市にゆかりのある方々と意見交換を実施するなどし、首都圏在住の立場からの御意見については聴取してきております。

今後につきましては、首都圏で開催されるイベントにおいて当市観光PRを実施するため予算化しておりまして、本年10月下旬に開催されるイベントにおいて、黒石よされ東京会が黒石よされで参加を予定していることから、市では職員を派遣することで現在調整中であります。

続きまして、6次産業化についてでございますが、本市には豊富な農林産物、食資源が数多く存在することから、これらの地域資源を活用して収益性の高い農林水産業を実現し、雇用確保と所得向上を目指す新たな基盤づくりが必要であります。そのために、青森県産業技術センターや津軽みらい農業協同組合、食品事業者などを構成員とした6次産業化推進研究会を立ち上げ、やる気のある農林業者や女性起業家が活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。また、地元農林産物を活用した差別化が図られる付加価値の高い新商品の開発や販路拡大のため、研修会の開催等により支援体制の確立に努めます。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。4番今大介議員。

◎4番（今大介） 御答弁ありがとうございました。

再質問の1点目でございますが、参加するイベントはどのようなイベントを予定しているのかお尋ねします。

2点目は、これからも意見交換会を続けていただき、話し合ったことを今後の市政運営に反映させ、市民サービス向上にぜひつなげていただくよう市長にエールを送らせていただきます。

こちらは、答弁要りません。

3点目は、市として6次産業を推進していくために、各地区で勉強会等を開催してはどうかと思うがお尋ねします。以上です。

◎議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） それではまず、関東圏の観光PRについての派遣予定のイベントの具体的な内容でございますが、ことし10月に東京県人会が毎年主催して東京都中野区で開催している青森人の祭典への派遣を予定しております。内容としては、当イベントへことしも黒石よされ東京会が黒石よされでパレード参加、また、市内の事業者のグルメ出店が予定されており、そのパレードと出展ブースにおいてパンフレット配布等を行い観光PR活動を実施することとしており、現在、参加団体と調整中でございます。

次に、6次産業化に関する勉強会でございますが、昨年度より6次産業化と農商工連携を推進するため食産業促進勉強会を年2回開催しております。議員御提言の勉強会につきましては、今後、それ以外に各地区において開催している人・農地プラン座談会の際にも、この支援制度等の周知を図っていきたいと考えております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 4番今大介議員。

◎4番（今大介） 御答弁ありがとうございました。

最後に、6次産業化の取り組みについて要望したいと思います。

市の財政も予断を許さぬ状況であります。疲弊した地域経済の振興を図るため、あまり金をかけず、行政側からも積極的な支援をしていただくことをお願い申し上げ、今期の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 以上で、4番今大介議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（北山一衛） 次に、2番三上廣大議員の登壇を求めます。2番三上廣大議員。

登壇

◎2番（三上廣大） 皆様おはようございます。

今議員に引き続きまして、新人2番手で質問させていただきます新政会三上廣大でございます。今回は2回目の一般質問ということで、まだまだふなれではございますが、精一杯頑張っ  
てまいりたいと思っております。

それでは早速通告に従いまして順次質問させていただきます。

まず初めに、市役所周辺整備についてということで、旧大黒デパート建物に対する今後の市の考え、対応についてお伺いいたします。

この旧大黒デパートに関しましては、日ごろより多くの市民の皆様より御意見、御要望を頂

戴しているところでございます。先日、スポカルイン黒石で開催されました黒石市議会議会報告会におきましても、参加市民の方より御意見を頂戴したところでございます。私も小学校のころは、亡くなった祖母と一緒によく買い物に足を運んだ記憶がございますし、また、中学校のころは友人たちと毎日のように通った遊び場でもありました。そんな大黒デパートは、当時の市民の集いの場であり、また、憩いの場であり、多くの方々から愛されていた思い出の場所でありました。閉店より10年ほどが経過し、建物の傷みも一層激しくなり、時々私も建物の状況把握のため、中に入ることはもちろんできませんが外側からのぞかせていただくことがございます。長年放置されてきたため、中の状態は本当にひどい状態となっております。再利用はかなり難しいように思われますが、なにより雪、雨水が建物にしみ込んできているせいか外壁は剥がれ始め、建物内部からはかび臭いような異臭も外に漏れ始めております。建物、土地共に黒石市の所有ではございませんが、このまま旧大黒デパート建物を放置し続けることは、市役所周辺や市街地観光へのさらなる影響も必ず出てくるものと懸念しているところでございます。

特に、ことしから黒石よされのメイン会場を市役所前に移したことにより、交通アクセスの改善や場所がわかりやすくなった等の要因もあり、観客数も昨年に比べ5,000人増となったとのことでございます。ねぷた、よされ等の観客の中には、日中は市内観光を楽しみたいと、そういった方も多いはずです。今後の観光イベントから導線にある各観光施設、こみせ通り、横町商店街、観光バスの停車する市役所とその周辺の商店等は、日々老朽化しながらも残り続けている旧大黒デパート建物により、非常に悲しいことではございますが、市街地の景観やさまざまなおまなところになんらかの影響が出てきていることもまた事実であります。取り壊すにしても、もちろん費用がかかることではございまして、そのほか、さまざまな問題があるとは思いますが、この黒石市の観光のますますの発展のためにも、そしてまた、歴史と伝統の城下町、あずましの里黒石市の美しい町並みを守っていくためにも、行政、市民一丸となって乗り越えなければならない壁であると考えます。

そういったことから、まずは市の方からも、ぜひ一歩でも二歩でも前進していけるようなアクションを起こしていただきたいと考えますが、まずは市として建物の現状把握はしているのか、また、今後の市の考え、対応についてお聞きしたいと思います。

次に、学校教育問題についてお伺いたします。

この学校教育問題、一言で教育問題と申しましても、どの自治体の教育委員会においても実にさまざまな問題を抱えていらっしゃるわけでございます。本日は、特にいじめ問題について取り上げお聞きしていきたいと思っております。

最近の新聞報道によりますと、内閣府の発表によるこの東北6県における自殺した小中高の

児童生徒の数は5年間で154人にもものぼるそうです。そして、そのうち明確ないじめによる自殺は2人、全体の3割に当たる48人は原因不明とはされておりますが、専門家はいじめが原因の可能性もあると指摘しております。

いじめ問題は、学校教育問題の中でも永遠の課題といっても過言ではありません。

この10年、20年の時代の流れとともに、より陰湿かつ巧妙になってきており、昨今は携帯電話、スマートフォン、SNSの普及により学校以外でも家にいても外にいてもメール等による一方的な執拗ないじめもあるため、今もいじめを受けている子供たちにとっては、逃げ場のない本当に辛い状況になっていると思います。そうであれば、今こそ保護者、学校のみならず、行政、さらには地域といったように四者連携により、しっかりと子供たちをいじめから守り、安心・安全で楽しい学校生活となるよう環境づくりを徹底していかなくてはならないと考えます。

そこで、本市におけるいじめ問題に関する現状把握と今後の対応について、お聞きしたいと思っております。

未来ある子供たちの学校生活を、尊い命を守ることは我々大人の義務であり、この黒石市からいじめを根絶する、いじめという言葉自体をなくしたい、これが私の願いであり、必ず実現してまいりたいと思っております。まだまだ政治家としては未熟な私ではございますが、一生かけて取り組むべきテーマであると思っております。

このいじめ問題における質問におきましては、理事者側の前向きかつ建設的な御意見、御答弁をぜひともよろしく願います。

それでは、最後に松の湯交流館についてお伺いいたします。

7月16日のオープン以降まもなく2カ月がたとうとしております。その間、こみせクラシックカークラブ青森ミーティング2015、ねぷた祭り、よされまつりなどのイベントが開催されました。イベント期間中、本当にたくさんの方がこの黒石を訪れてくださり、新しく生まれ変わった松の湯交流館にも立ち寄っていただいたことと思います。私もイベント開催期間中に何度か交流館のほうへ様子を見に行かせていただいたところではございますが、ただ一つ残念だったのは、集いの蔵のオープンが今回の祭り期間中に間に合わなかったということでもあります。

しかしながら、いよいよ9月には集いの蔵もオープンを迎え、いよいよ本格稼働ということでございますので、これからの松の湯交流館に大変期待しておるとともに、観光の拠点としての役割のさらなる向上を望んでいるところでございます。そこで、今回のクラシックカー、ねぷた、よされまつりにおけるイベント期間中の来客数についてと、期間中はもちろんのこと、平日や、週末の土曜、日曜などにおける今後の課題、見通しについてお伺いいたします。

以上3点を御質問させていただきたいと思っております。たびたびにはなりますが、理事者



の皆様方の情熱的かつ建設的な御答弁をお願い申し上げまして、檀上よりの私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高橋憲） 三上廣大議員にお答えいたします。私からは松の湯交流館についての今後の課題と見通しについてお答えさせていただきます。

松の湯交流館自体の利用をさらに高め、市街地の回遊性の向上へ寄与することが課題として考えております。各種イベントや金平成園などの文化財、点在する地域資源と連携することにより魅力が増大され、来訪者の回遊性を高めることが市街地の活性化につながるものと考えております。そのため、回遊を促す仕組みづくりとともに、来訪者がおもてなしを感じ心地よく過ごせる快適な回遊ルートの整備が必要というふう感じております。

また、市民の方が地域活動や生涯学習の場、あるいは憩いの場として利用いただくことによりにぎわいが創出されることから、魅力ある自主事業などを実施し、多くの方が参加いただける機会を提供していくことが重要というふうと考えております。

このほか、各種団体や企業などに施設の説明や活用提案を行い、協力を得ながら利用の拡大を図ってまいりたいというふうと考えております。

集いの蔵につきましては、公募により出店の決定を受けました特定非営利活動法人横町十字まちそだて会が、地場産品を利用した軽食喫茶、手仕事の作品や高原野菜を販売する店舗を今月オープンする予定になっており、新たな魅力発信及び集客に期待しているところであります。私からは以上です。その他につきましては担当部長より答弁させます。

降壇

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、旧大黒デパート建物に対する今後の市の考え、対応についてお答えいたします。

旧大黒デパート建物については、平成17年に閉店以来、長期間使用されていない状態であり、建物の一部が損壊し通行者へ被害が生ずる可能性があることから、ことしの6月、建物の所有者等に対し空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき建物の適正管理をお願いする文書を送付しております。

市の中心市街地に老朽化した大規模店舗があることは、安全管理面並びに市街地のにぎわいと歴史ある景観に配慮した町並み形成を目標とする上で好ましい状況にはないことは十分認識しておりますが、空き家、空き店舗等は所有者等の責任において適正な管理をすることが原則

であると考えております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、松の湯交流館についてのねふた、よされまつり等イベント期間中の来客数についてお答えいたします。

松の湯交流館は7月16日にオープンし、8月末現在の来客数は6,417人となっております。また、イベント期間中では、クラシックカークラブ青森・ミーティングinこみせが1日で1,306人、黒石ねふた祭りが7日間で875人、黒石よされが6日間で1,248人の来客数となっております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（齋藤有） 小・中学校におけるいじめ問題の現状把握と対応についてお答えいたします。

全ての学校では、いじめ防止対策推進法に基づき、いじめ防止基本方針を定め、全教職員で共通理解を図り、いじめの未然防止等の対策に取り組んでおります。

また、全ての教育活動の中で、児童生徒の人間関係の変化や生活実態のきめ細かい把握に努めながら、いじめの兆候はどんな些細なことでも真剣に受けとめ、教職員相互に情報交換をして迅速な対応を図っております。教育委員会では、毎月学校から提出されるいじめの実態及び児童生徒の出席状況報告書の中で、いじめの具体的な内容と指導の状況を把握しております。さらに、問題行動等生徒指導上の諸問題調査や児童生徒指導状況報告書等、いじめに関する調査でも現状を詳しく把握しているところです。

次に、その対応につきましては、学校ではアンケート調査や教育相談、保護者面談を実施していじめの早期発見に心がけています。もし、いじめを認知した場合には、事実関係の詳しい把握をするとともに、いじめられた児童生徒及び周囲の児童生徒への指導やいじめられていた児童生徒への心的配慮に努めています。また、早急に保護者と連絡を取り合い、具体的な対応策を協議するなど解決するまで継続的に指導を行っております。さらに、学校におけるいじめの対処方針や生徒指導の情報につきましては、学校が参観日や学校便り等を通じて積極的に保護者や地域へ発信し、協力を求めています。

また、民生委員や子供会、地域見守り隊や児童館と情報を共有し合いながら、いじめの未然防止に向けて地域と協議している学校もあります。教育委員会では、スクールカウンセラーや関係機関との連携を強化するよう働きかけるとともに、家庭と地域社会が積極的に連携を図った事例がさらに広がっていくよう、啓発に努めていきたいと考えております。

また、今年度中に黒石市いじめ防止基本方針を定め、これに基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応を図るために必要な施策を総合的に策定します。今後ともいじめ根絶に向

けて学校や関係機関と連携を図りながら取り組んでまいりたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 御答弁ありがとうございました。

まずは、市役所周辺整備についてということで再質問させていただきたいと思います。

まずは、これまで市役所に対してですね、市民の皆様から、この大黒デパート建物についてどういった御意見・御要望がきているのか。また、もしおわかりになるようでしたら件数もですね、大体何件ぐらいっていうのを、年間何件とかですね、そういった形でお教えいただければと思います。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 過去にですね、近隣住民からですね、建物へ侵入しているという報告は1件ございましたけれども、そのほかは承っておりません。ただ、黒石商工会議所、それから協同組合、横町向上会からの要望は承っております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） それではですね、先ほど建物の所有者の方に文書を送付して対応をしてくるということでございますけれども、その後の回答というものはきてらっしゃるのでしょうか。また、今後、その先の対応について伺いたしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 回答はいただいておりません。今後、市としてはですね、旧大黒デパートの解体・撤去等、市街地に係る課題を検討する目的で黒石商工会議所が昨年立ち上げました中心市街地活性化特別委員会に、市として、オブザーバーとして参加しております。それによって解決等について検討しております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 冒頭、壇上での質問では中には入れなかったんですけども、市民の方からですね、観光に対する影響っていうのも聞いておりますが、そのほかにですね、防災の観点からですね、例えば地震災害あった際の耐震強度、これは市ではもちろんはかっているわけではないと思うんですけども、また、火災があった際ですね、地震、火災があった時、周りの、周辺に与える被害っていうのは大変大きくなるような感じがしておりますが、そういった部分にですね、市民の皆様からの懸念に対する市の考え、また今後の対応っていうのはどのようになってますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎**総務部長（成田耕作）** あくまでも市としては、空家等対策の推進に関する特別措置法第3条において、空き家等の所有者等の責務として、「空家等の所有者又は管理者は、周辺的生活環境に悪影響を及ぼさないよう、空家等の適切な管理に努めるものとする。」と、このように定められておりますので、今後も引き続き所有者等に対し適正管理を要請してまいります。

◎**議長（北山一衛）** 2番三上廣大議員。

◎**2番（三上廣大）** ありがとうございます。

最後に提言になりますが、もちろん市の建物ではないということは重々承知しておりますが、先ほどから申しておりますとおり、市役所周辺の景観、観光への影響また防災面においても市民の皆様大変不安に思っておるところでございますので、何とぞ早期の対応をですね、これから御検討、また、ぜひとも御対応いただきたいなと思っております。

続きまして、学校教育問題について再質問させていただきたいと思っております。

このいじめという問題はですね、本当にさまざまな要因がきっかけで発生するもんだと思っております。男子生徒、また女子生徒の人間関係、また友人関係のこじれ等さまざまあるかと思っております。そういったときにですね、男性教職員また女性教職員の方でなければ対応できないこともあるかと思っております。学年ごとの教職員の横のつながり、連携、情報共有というのはもちろん強化も必要でございますが、何よりも先生方のいじめ問題に対する意識の向上、また、生徒への向き合い方っていうのが一番、私、大事だと考えております。そこで教職員のいじめ問題に対する意識向上、また、意識改革の手だて、これからの取り組みについてお伺いしたいと思っております。

◎**議長（北山一衛）** 指導課長。

◎**教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（齋藤有）** 先生方のいじめ問題に対する意識向上とか意識改革の手だてについてですけども、学校では、いじめに関する昨今の社会情勢とか事件を鑑みて、児童理解や事例研究などいじめに関する研修会を行って教職員のいじめ問題に対する危機意識と指導力の向上に努めております。

教育委員会といたしましては、学校への計画訪問や生徒指導訪問、それから生徒指導担当者会議を通して、1点目、いじめの早期発見に努め、迅速に対応すること。2点目、教師一丸となって、いじめは許さない学校づくりに努めること。3点目、豊かな心の育成のために道德教育の充実を図ること。4点目、校内研修にいじめに関する内容を取り上げ、教職員の資質向上に努めること。この4点を学校に対して指導しているところです。以上です。

◎**議長（北山一衛）** 2番三上廣大議員。

◎**2番（三上廣大）** またですね、先ほど御答弁の中でアンケート調査されているということでございましたけども、年間のアンケート調査の実施回数と調査項目の概要というのをお知らせ

ください。

◎議長（北山一衛） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（齋藤有） いじめを早期に発見するために、市内全ての学校ではアンケート調査を実施しております。大体年に二、三回実施しているところがほとんどですが、中には4回以上実施している学校もあります。

その調査項目の内容といたしましては、例えば、からかわれたことがありますかとか、それから、仲間外れにされたことがありますかとか、友達がいじめられているところを見たことがありますかというような、そういう直接的な質問とかもありますし、そうじゃなくて、学校は楽しいですかとか、食欲はありますかとか、よく眠れていますかとかってというような、そういう間接的な質問をするときもあります。それ以外にも自由記述にしてですね、子供たちが書きやすいように配慮している場合もあります。とにかく学校としては、子供の実態に応じてそういう質問項目とかをですね、見直し、改善を図りながらいじめの小さなサインを見逃さないように常に努めております。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ありがとうございます。

先ほど最初私申し上げたんですけども、やはり先生方の資質向上、そういったことも大切でございますけれども、もう1点ですね、これは文科省のいじめ学校安全等に関する総合的な取り組み方針の策定、この中の趣旨の中にですね、「これまで以上に学校、教育委員会、国、さらには家庭、地域を含めた社会全体が一丸となって」という、そういう文言があります。私も全く同じ考えてございまして、もっと学校、地域一緒になって子供たちを育てる環境というのをつくればと思っております。そうすることによりですね、外から拾える情報もあつたりとかですね、また、先生方だけでは気づかない児童生徒のちょっとした変化、いじめの兆候の早期発見っていうのにつながっていくと思っております。

そこですね、これまでですね、例えば先生方の研修会もしくは第三者、例えば地区の協議会の方ですか、そういった方との意見交換会の、いじめに関するですね、そういった場というものは今まであるものでしょうか。

◎議長（北山一衛） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（齋藤有） 議員さんおっしゃったとおりですね、いじめの早期発見・早期対応に向けては、学校だけでは無理なので、保護者の方とか地域の方々と一緒に連携していくことが大切だというふうに考えております。

先ほど少しお話ししましたが、各学校では民生委員の方とか、それから学校評議員の方、それから児童館の職員の方々とですね、生徒指導面に関する情報交換したりとか協議したりす

るような、そういう学校さんもあります。やはり今後も新たな組織とか会議をつくらなくても既存の組織とか会議の場を活用しながらですね、学校と地域が協力体制を築いていって、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に、そういうことができるように校長会を通じて働きかけていきたいというふうに思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 前向きな御答弁ありがとうございました。

冒頭壇上のほうでも申し上げました、私ですね、これからも学校教育問題に関しましてしっかり勉強を重ねましてですね、これからも取り組んでいきたいと思っております。また、このいじめ問題に関しては、また再度質問させていただきたいと思っております。

それでは最後に松の湯交流館について再質問させていただきたいと思います。

イベント期間中、先ほどお客さんの人数教えていただいたわけですが、その来館されました方からですね、例えばどういった御感想、また御意見というものがあったのか、もしそういうデータ取ってありましたらお教えいただければと思います。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 来館者の感想や意見ということでございますけれども、来客者へのアンケート調査は行っておりませんが、いただいた感想や意見を取りまとめております。

主な内容といたしましては、昔、銭湯に来ていた方からは、懐かしみながら松の湯であったころの話をしていただき、初めて来られた方からは、雰囲気が良い、座敷があり無料で休憩ができ観光情報も聞けて助かる、インターネットが使えて便利との意見がありました。また、飲食店や足湯が欲しい、トイレがわかりづらい、もっと使われるようになってもらいたいなどの意見もいただいておりますので、今後、皆さんの意見を参考にしながら、多くの方が利用したいと思う環境づくりに努めてまいります。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ありがとうございました。

この松の湯交流館、オープンしてからですね、私もちょくちょく、ちょっと遊びにというか様子を見に行かせていただいたんですけども、結構若い方たちもですね、学生さんから20代の方まで結構いらっやいまして、これからですね、交流館のほうで自主開催イベントというのはされてるということでお聞きはしてたんですけども、もう少しですね、若い世代の方たちを巻き込んだイベントの開催というのはいかないもののでしょうか。やっぱり、黒石頻りにロックフェスっていうのをやっておりますけれども、ああいった形でですね、本当に若い方たち黒石のイベントに参加しております。もう少し交流館のほうにも集めれるようなですね、イベントの企画っていうのは可能でしょうか。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 若い方々が参加できる自主事業の実施ということでございますけれども、自主事業の開催により、松の湯交流館を訪れるきっかけをつくるとともに、そこで人が活動しにぎわいを創出していくため、月1回程度の自主事業を実施する予定としております。

8月のアロマ石けんづくりでは、定員の15名に達し実施されましたけれども、9月にはこみせまつりに合わせ、黒石を売り込むHAPPY麵恋<sup>®</sup>（めぐい）ジャーのB-1グランプリ出場をPRするため、連携した事業、いわゆる折り紙での金魚ねぶたづくり、これを展開していくとともに、まち歩きにつながるクイズ形式の写真撮影を実施する予定としております。また、自主事業の計画に当たっては、皆さんの意見も聞きながら、幅広い世代の方が気軽に参加できるものとしてまいります。子供が例えば出席できるような事業というものには、その親御さん、また祖父母が参加してまいると思っていますので、そのような事業を進めていきたいと考えております。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） それとですね、イベントの開催ということももちろん大事でございますけれども、それに合わせた広報活動ですね、もう少し幅広い世代に見ていただくための松の湯交流館のホームページのですね、さらなる充実、また来館者、利用者数の向上につながるような工夫というものを、もう少し利活用を図れないかなというふうに思っておりました。その辺はどのようにお考えでしょうか。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 松の湯交流館ホームページの充実ということでございますけれども、市ホームページに松の湯交流館の専門ページを設け、施設やイベント、関連情報を発信しておりますが、基本的な事項が主な内容となっております。そのため日々の状況につきましては、松の湯交流館のフェイスブックによりリアルタイムで手軽に見ることができるものとしております。

今後は、ホームページについても活動情報がわかりやすいよう画像などを使い定期的に更新するとともに、いろいろな場面を活用し多くの方に知っていただけるよう努めてまいりたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ありがとうございます。

最後に御提言でございます。松の湯交流館ですね、市民にとってもですね、観光・コミュニティー・防災、そういったさまざまな役割を持った施設ということは重々わかっておることでございますけれども、市民の皆様からはですね、できるならばもう少し観光の方面に松の湯交流

館利活用いただいて、力を入れていただければなということで御意見きておりました。そういったことをですね、今後ぜひとも御検討・御対応いただければと思います。以上で質問のほう終わらせていただきます。

◎議長（北山一衛） 以上で、2番三上廣大議員の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 次に、15番中田博文議員の登壇を求めます。15番中田博文議員。

#### 登壇

◎15番（中田博文） 平成27年第3回市議会定例会に当たり一般質問をさせていただきます。市民・公明クラブの中田博文でございます。

市議選後の選挙無効の異議申し出の件もようやく落ち着いたしました。しかし、まだまだ市民の間には話題として飛び交っているのです。よって私たち議員は、このことを教訓とし、改めて襟を正し真摯な態度で臨まなければならないと考えるきょうこのごろであります。今定例会も新人3人を含み10人の通告であります。市の発展のためには、通告者ができるだけ多くなることを望むところでもあります。また、8月22日に議会報告会が開催されました。集まった市民は30名ぐらいでちょっと少なかったのです。しかし、前回とは違った顔ぶれだったことがよかったと思った次第であります。しかし、7回目になります、16人全員で開催したことは1度もなかったのです。私の議長時代は実現できなかった、北山議長、工藤和行議会改革推進委員長並びに会派の会長さん方には実現のために御尽力していただきたいと存じます。

それでは通告に従い順次質問いたしますので、適切な答弁をお願いします。

まず最初の質問は、津軽南市町村連絡協議会の県に対する重点事業要望における市の対応についてであります。

小さな1点目は、県単事業での除雪機導入であります。

要望書を見ると、津軽南市町村のような特別豪雪地帯において、農業用施設及び農用地の冬期管理や春作業の準備は、まずは欠かせないものであるとのこと。このことから、国が実施している経営体育成支援事業について、県の強い働きかけにより乗用型トラクター装着式除雪機が補助対象となったところでもあります。しかし、雪による農業被害や冬の農業用施設管理は、豪雪地帯の本県にはまことに重要な課題であります。よって、県単事業の「冬の農業」省エネ施設等整備事業のようなハウス整備と除雪機を導入できる事業を実施していただくよう強く要望するところでもあります。この要望書の一連の流れ並びに復活についての内容、補助率、期間、対象者はどのようになっているのか、また、今までの実績もあわせてお願いいたします。要望に対する県の反応と回答はいかなるものかお尋ねいたします。



小さな2つ目として、中学生までの医療費無料化についてであります。

要望の趣旨は、子供に対する医療費の給付は、早期受診・治療による疾病の重症化の防止や市町村の医療費負担の抑制が期待されるものであります。小学校就学前児童の医療費給付事業については、県内全市町村で実施されております。対象範囲を義務教育、中学生修了前までとする事業については、県内20%以上で実施されていないのであります。医療費無料化の恩恵は誰しもが等しく受けられていない現状。国に国庫補助事業として実施していただき、安心して子供を産み育てられる環境の整備について強く働きかけてほしいとのことであります。子供が少ない自治体、財力が豊かな自治体は単独で実施をしています。当市は単独ではできるはずがないのであります。高樋市長は、県議時代に国民等しく恩恵を受けることができなければ公平ではないと強い口調で発言していたことを今思い浮かべているところであります。黒石市の現状と県の回答はいかなるものかお尋ねいたします。

小さな3つ目は、西十和田トンネル（仮称）の早期建設についてであります。

要望の趣旨は、十和田湖までを結ぶ国道102号及び454号の一部区間は、豪雪により冬期間の閉鎖を余儀なくされており、国際的な観光地である十和田湖の観光資源を生かし切れていない。平成27年度末には北海道新幹線開業を迎え、津軽海峡交流圏における交流人口の増加が期待されるので、県土の均衡ある発展のために西十和田トンネル（仮称）の早期建設を要望するということであります。村上啓二議員が議長時代の昨年、この事業の必要を確認しあうとともに、新たなる推進の機運と盛り上げを図らなければならないとの思いを抱いたのであります。なぜなら、一向に進まないという観点から西十和田シンポジウムが開催に至ったのであります。よって、これまでの市の活動とこの要望に対し、県の回答はいかなるものかお尋ねいたします。

小さな4つ目は、主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の緩和についてであります。

要望書を見ると、本市では都市計画道路3・4・7黒石環状線を順次整備しております。平成30年度の完成供用を目途に事業着手しているところですが、通過交通等の分散による主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の解消を図るためには、県道から国道102号までの区間についても整備が必要であるということであります。しかし、この区間には浅瀬石川をまたぐ長い大橋の整備が必要となるため、県事業としての整備も検討していただきたいということであります。

そこでお尋ねいたします。市の活動実績はどのようになっているのかと、県の回答はどのようになっているのかお尋ねいたします。

大きな2番目は、ふるさと納税についてであります。

当市もやっと今年度から寄附者に対して特典の導入が始まったのであります。まだ数カ月しかたっておりませんが、反応はいかなるものか、返礼品のない前年度との比較をお知らせいただきたい。1万円以上、3万円以上、5万円以上の区別と件数、金額はどうなっているのかで

あります。隣接の平川市、8月現在で1,626万3,000円で1,212件、前年度比7.8倍に上がったとのこと。また、2015年の上半期ふるさと納税の額が一番多かったのは山形県天童市。寄附額は11億68万円に上るとのことです。この寄附額が黒石市にくるのであれば市民文化会館全館の改修ができるのであります。職員が少ないから、窓口が大変とかでなく、収入をふやす手立てと工夫を凝らし、せつかくのチャンス到来と位置づけ、ふるさと納税寄附の増額を目指し、市民のために頑張っていたきたいと考えるところでもあります。最後に抽選はどのようになるのかも合わせてお尋ねいたします。

大きな3番目は、運動公園の維持管理についてであります。

市民の方、特にスポーツで運動公園へ出入りする方は、スポーツのイベントが重なるとき、駐車場は満杯、車も置けない、ましてや県内一円の大会になると大型バスが入るため運転手の方はびちびちに駐車して運転席から離れることができないとのことでもあります。野球場と陸上競技場の間はいっぱいあいているので、もっとうまく利用させてくださいとのことでもあります。また、高齢者や、特に足腰の悪い方なども中間スペースまで入らせていただきたいという要望であります。担当課の御配慮をお願いいたします。

大きな4番目は観光行政についてであります。

平成17年に重要伝統的建造物群の指定を受けてから、担当課は着々と修理・修復の整備を進めてきているのであります。しかし、全体の整備が終了するまでには50年かかるとのことでもあります。気が遠くなるような話であります。黒石のこみせが指定後、他の類似した所をいつかは視察に行きたいと思っていたのであります。先般、運よく新潟県長岡市の栃尾の雁木を視察することができました。4キロメートルで長いので、見学のしがいがあったのであります。黒石のこみせは短い、観光客も、「たったこれだけ、あと見るものはないのですか」という言葉を残して帰っていく方が多いと聞き及んでおります。よって、こみせの町並みにもっと特徴を持たせてはどうかであります。古いこみせであります。昭和時代のレトロな町並みなどは大変おもしろいと思いますがいかがでしょうか。文化的な物を壊すことなく、許される範囲で工夫をしてみたら観光客も足をとめて滞留時間も長くなり、もっと喜ばれるのではと思います。研究していただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

例を挙げるなら、松の湯も建物をつくったからいい、利用者がいればいいでなく、見せるもの、黒石の由来や歴史的な説明板をかかげるとか、人の足をとめる、目を向ける、今のままでは弱すぎると感ずるものであります。こみせの町、中町をアイデアを駆使していただきたいと思いますが所見を賜りたいと存じます。

最後の質問は、市長の政治姿勢と行政効果についてであります。高樋憲市長、昨年7月18日に市長に就任し、今まさに1年を経過したのであります。私とは違って酒を飲まないで1

日いっぱいフットワークも軽やかにいろんな地区の方々、団体の方々、数多くの市民の声を聞き、いろんなことを拾い、実行・実施を即進めているのであります。その姿を目の当たりにするとき、1期4年の間に盛りだくさんのことをなし遂げてくれるのではと大いなる期待を持っているものであります。高樋市長が1年間で提案、実施した事業の検証並びに市民の周知、推進、成果はあるかであります。

小さな1点目は、黒石市地酒による乾杯を推奨する条例制定についてであります。

小さな2点目は、健康都市宣言についてであります。市民の周知度、すなわち理解をどこまでさせているのか。成果は感じられるかであります。

小さな3点目は、黒石米復活への試みについてであります。のろし、アドバルーンは上げたが、どのような試みをしたのか、これからするのかであります。実現のための将来像はどのようなことを想定しているのかであります。

小さな4点目は、観光案内所開設についてであります。私自身も観光協会は産業会館の中に入っているのではなく現場にいなければと思っていたのであります。市長の思い切った英断に感謝を申し上げるものであります。お尋ねしたいことは、移転をし、利用度と職員の方々の感想はどのようなものかをお尋ねいたします。

小さな5点目は、黒石病院についてであります。今、黒石病院は資金不足が生じているのと、小児科・産婦人科・麻酔科が常勤でなくなり、患者が減り、赤字化への傾向であり、黒字化は非常に厳しいとのことであります。そこで、赤字化にならないための手だてはあるのかであります。また、現在黒石病院は不人気であります。病院に行くと1日かかり、家に帰って来ると疲れてしまうとのことであります。

先般、母を10時30分に黒石病院へ連れていったら帰りの連絡がなく、どうしたのかと思っていたところ、午後2時30分ころ薬局にいるとの連絡であります。おなかはずくし、疲れてしまったとのこと。家に帰ったら横になっていたのであります。病院では鋭意努力をし、予約制を導入したり工夫をしていますが、長い待ち時間をどのように間を持たせるかを考えていかなければならないと思いますが、所見を賜りたいと存じます。

最後の質問は、高樋憲市長、ことしの7月17日で1年経過であります。市長として達成感、もしくは充実感等を感じたか、所感を述べていただきたいと存じます。

以上で、壇上からの質問を終らせていただきます。御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えいたします。

私からは、市長の政治姿勢と行政効果についての全般について答弁させていただきます。

平成26年10月に黒石市地酒による乾杯を推奨する条例を制定いたしました。これまで市内で開催される各種団体の懇親会において、地酒で乾杯する姿が見られるようになり、条例も少しずつ浸透してきてたのではないかと実感いたしております。

今後は条例の目的であります、蔵元と市民が意識を共有し、食を含めた伝統文化の継承及び地元産品の愛用につながればと考えております。なお、きょうの新聞にも載ってございましたけども、昨日青森市内で開催されました県産清酒品評会におきまして、鳴海醸造店が吟醸酒・純米酒の両部門で最高賞の県知事賞を受賞し、さらに、県産米だけで醸造した日本酒が対象となる県産業技術センター理事長賞にも吟醸の部で獲得するなど、ますます条例普及に弾みがつくのではないかとこのように考えております。

次に、健康都市宣言についてであります。地域健康づくりのために、地区組織の育成としまして保健協力員の組織化にも取り組み、ことしの5月に保健協力員による新たな任意団体、黒石市保健協力員会が立ち上がり、9月と10月に市民を対象とした運動教室を開催するなど事業を開始しており、さらなる活動が期待できるものと考えております。

また、かつて良質米として有名な黒石米を復興させることにより、市民に元気と活力を与える切り札の1つにしたいとさまざまな場面で訴えてまいりましたけども、そのことから、黒石米の評価向上を目指し、ムツニシキの復活に合わせ、新品種である特A取得米、青天の霹靂の作付面積の拡大推進や青森県と連携した売り込みなどを強力に実施し、黒石米の復興とブランド化に努めてまいりたいというふうに考えております。

観光案内所開設についてですが、その地域の顔は駅だと言われております。また、外国人旅行者やプライベートな国内旅行者が移動する際利用されるのは、公共交通機関であるとも言われております。この旅行者ニーズに対応するために、このたび、一般社団法人黒石観光協会にお願いをして弘南鉄道黒石駅前に事務所を移転し、観光案内所を開設していただきました。7月の開設以来、多くの方々に御利用いただいているようであります。今後はJR弘前駅からの誘客に取り組んでいきたいというふうに考えております。

黒石病院の赤字解消につきましては、当初計画の医師数、診療科など変化したこともあり、大変厳しい経営状況であります。今後は病院関係者と情報共有し、経営改善に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

最後に、1年を振り返って言えますことは、黒石市はまだまだ活用できる素材がたくさんあるということでもあります。それを生かし切っていないような感じをいたしました。その埋もれている宝を見出し、市民と情報を共有し、知恵を出して進んでいくことが課題解決につながるものではないかとこのように考えております。

これからも市民目線を大切にし、誇れるふるさと黒石を目指し行動してまいりますので、議員各位のお力添えをお願いしたいというふうに思います。

最後に充実感でありますけれども、まだまだ充実感には至っておりません。

詳細については担当部長より答弁させます。

降壇

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、ふるさと納税についての特典導入後の動向についてお答えいたします。

まず、問い合わせ等の状況でございますが、電話による問い合わせ件数は約20件ほどございました。例年に比べ多くなっております。参考までに、特典導入後の市ホームページのふるさと寄附金掲載ページの閲覧数を申し上げますと、6月から8月までの期間において、890の方が閲覧されております。

次に、3万円以上の特典に係る抽選の時期についてでございますけれども、11月と3月に行うこととしております。

1万円以上の寄附の特典であるねぶた祭り及び黒石よされの観覧席並びに津軽こけし館入館券の実績でございますが、ねぶた祭りが1人、黒石よされが2人、津軽こけし館が5人ございました。

次に、ふるさと納税の対象となる寄附の前年度との比較でございますが、前年度・今年度いずれも8月31日現在の数値で申し上げますと、前年度は7件で35万円であったものが、今年度は15件で58万円となっております。件数で8件の増、金額では23万円の増額となっております。

今後とも、ふるさと寄附金に係る周知等に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、西十和田トンネル（仮称）の早期建設についてお答えをいたします。

西十和田トンネル、仮称でございますが、その早期建設につきましては、ことし7月31日に開催されました青森県知事に対する重点事業説明会において、黒石市長が会長であります津軽南市町村連絡協議会から、ことし1月開催しましたシンポジウムのことも交えて要望したところでございます。

青森県からの回答は、国立公園に位置していることから環境省の合意を得ることが必要であり、また、高度な技術と莫大な事業費を要するなどの課題があることから、地元と一体となって課題を整理し検討してまいりたいという回答でございました。

市といたしましても、事業化に係る情報収集をするとともに、要望も継続していく所存でございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（奈良岡和保） 私からは、中学生までの医療費無料化について、健康都市宣言についてお答えいたします。

まず、津軽南市町村連絡協議会の県に対する重点事業要望における市の対応についての黒石市の現状と県の解答についてお答えします。

本市では、平成26年10月から現物給付方式移行に合わせ、就学前児童の医療費を完全無料化としてきました。そして、県の方針としては以前と同様、国において行うべき重要な少子化対策と考えており、これまでも国へ要望してきたが、今後もさまざまな機会に国に働きかけていくとの回答でした。市でも、中学生までの医療費無料化を、県のみならず国や国会議員に対しても再三要望してまいりました。今後も、人口減少、少子化対策の観点から、国の制度による中学生までの医療費無料化を早期に実現できるように要望を継続してまいります。

続きまして、健康都市宣言についてお答えします。

市民の健康づくり促進と健康づくりに関する意識を広く普及することを目的に、新たな事業として、今年度黒石市健康マイレージ事業などを行っております。この黒石市健康マイレージ事業は、健康づくり事業であるウォーキングや食生活改善講習会、健康教室などに参加することでポイントを獲得できることから、例年に比べて参加者が増加しております。

今後は、黒石市健康マイレージ事業にさらなる関心をもってもらえるよう、市の広報紙やホームページはもちろんマスコミの皆様にも御協力いただき、さまざまな方面で周知を図るとともに積極的な活動を展開してまいります。なお、現在まさに取り組み中ですので成果はこれから御報告させていただきます。以上です。

◎議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、津軽南市町村連絡協議会の県に対する重点要望における市の対応についてに関して、県単事業での除雪機導入の要望に関し、その事業の内容と実績、あるいは県の回答等についてまずお答えします。それと、あと市長の政治姿勢と行政効果についての地酒による乾杯を推奨する条例制定、それと、黒石米復活の試み、観光案内所の開設、この3点について、これもあわせて答弁したいと思います。

まず、県単事業での除雪機導入についてでございますが、この事業は、平成15年度から平成23年度までの9年間、あおり冬農業施設整備対策事業として実施し、その内容は、冬期間でのハウス栽培に取り組む農業者などを対象に、1件の取得価格が50万円以上の除雪機やパイプハウスなどに対し補助するもので、平成15年度から17年度までは3分の1以内の補助率、

18年度から23年度までは4分の1の補助率となっており、取得価格及び補助金の上限はなく、県全体では107台の実績がありました。本市の実績としては、平成16年度は3人がそれぞれ1台ずつの計3台の除雪機を導入し、平成21年度においては事業名が変更となりましたが、青森県冬の農業省エネ施設等整備事業として1団体が2台の除雪機を導入しております。

県は、平成23年度の導入要望が1件まで減少したことや汎用性があるということが問題となりまして、平成24年度をもって当事業が廃止となっております。

国が実施している農業機械導入に対する事業として経営体育成支援事業があり、当事業についても、除雪機は汎用性が高いという理由からいまだ対象外となっておりますが、県の強い働きかけにより、これが一步前進し、議員も御質問でおっしゃったとおりトラクター装着式については補助対象となりました。

県の当市のこの要望に対する回答でございますが、この事業と低利な農業近代化資金等の活用を市で指導しているところであるということと、今後は地域の実情を反映した要件緩和について引き続き国からの情報収集に努めてまいるというものでございました。

ちなみに、本市としても平成24年度から市単独で農業機械の導入への支援事業を実施し、自走式除雪機が6台、トラクター脱着式除雪機が5台、計11台の導入を支援しております。

次に、市長の政治姿勢と行政効果に関して、地酒による乾杯を推奨する条例についての具体的なこれまでの取り組みでございますが、先ほどの今大介議員へ答弁したとおり、平成26年10月に当条例を施行し、条例の趣旨を理解し、協賛してくれる地酒を取り扱っている事業者等を対象に、今年度店頭旗やシールを配布し、条例の周知及び乾杯を推奨しているところでございます。なお、啓発物配付の周知につきましては、黒石小売酒販売組合を初めとする各関係団体へ文書による協力依頼送付に加え、広報くろいし及び市ホームページに掲載し、周知を図っているところでございます。

次に、黒石米復活への試みについてでございますが、まず、平成27年産から生産が本格化しておりますが、県産米全体を牽引するブランド米として期待されている青天の霹靂については、作付面積550ヘクタールの約2割、110ヘクタールと県内で最も多く作付されているのが当市でございます。そのことも考慮しながら、今後も県と連携を密にし、作付面積の拡大推進、売り込み等を強力に実施してまいりたいと考えております。県では、ことし3月に青天の霹靂生産指導プロジェクトチームを設置し、各種勉強会の開催、現地研修等を実施しております。当市においても、そちらの活動に積極的に参加するなど黒石米の復興を目指し、良食味、高品質生産に向けて取り組んでおります。

さらに当市では、本年度より黒石米活用検討実験事業を実施し、すし米に適しているといわれるムツニシキの栽培に取り組んでおり、主食用米との差別化を図ることにより、黒石米のブ

ランド確立を目指しております。秋の収穫後、各種イベントを活用した試食会の実施や、すし店への持ち込みを計画しております。販売先の確保や活用方法の検討など課題はございますが、今後も青森県産業技術センター農林総合研究所や南黒お米クラブと連携を密にし、これも作付面積を拡大しながら販路研究などに取り組んでまいります。

最後に、観光案内所開設についてでございますが、7月に開設した黒石観光案内所については、一般社団法人黒石観光協会の事務所移転と合わせ案内所を7月10日に開設してから2カ月が経過しましたが、1カ月当たり約230人の観光客が案内所を訪問しております。訪問客につきましては、黒石市を除く県内市町村を含めた東北地方からの観光客が大半となっておりますが、遠くからでは九州地方や中国地方からの観光客もいたと伺っております。問い合わせ内容につきましては、こみせ通りや津軽伝承工芸館など観光地への行き方についての問い合わせが大部分を占めておりますが、黒石ねふた祭りや黒石よされなどの夏祭り催事期間中などは、やはりイベントに関する問い合わせが集中しており、特に会場までのアクセスやその内容について御案内したと伺っております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、津軽南市町村連絡協議会の県に対する重点事業要望における市の対応についてに関して、主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の緩和についてと運動公園の維持管理、駐車場のあり方についてお答えいたします。

初めに、主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の緩和につきましては、これまでの要望活動により、交差点が連続している黒石市山形町から花園町の約1キロメートルの交差点7箇所にて右折レーンを設置し、これとあわせ流雪溝を整備するなど、年間を通じた交通対策を講じております。また、今年度の重点事業要望に対する県からの回答は、橋梁等も含めた環状道路の整備については、交通動向や信号制御等による渋滞緩和の可能性を含めた総合的な検討が必要なことから、引き続き市当局及び警察関係者と調整を図るということでした。市としましても、事業化に係る情報収集をするとともに、要望も継続していく所存であります。

次に、運動公園の維持管理費についてお答えいたします。

黒石運動公園には、正面に223台、陸上競技場西側に72台、計295台を収容できる駐車場を整備しておりますが、各種大会や猛暑日のプール利用などが重なり、年3回程度駐車場が不足する状況が見受けられます。これまでも駐車場が不足した場合は、大会管理者の協力を得て安全に配慮しながら駐車場以外の場所も一部開放しており、今後も利用状況に応じて大会管理者と連携を図りながら対応してまいります。また、案内板を設置しておりますが、陸上競技場西側の駐車場の利用が低いことから、わかりやすい誘導に今後努めてまいりたいと考えております。以上です。



◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（玉田純一） 私からは、4番観光行政について、こみせを昭和の町並みにすることはできないかについてお答えいたします。

中町こみせ通りは、古いものは江戸時代より商家町として栄えた町並みが評価され、平成17年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されたものであります。中町地区の保存修理・修景は、基準に沿って、毎年、所有者の申請により実施されております。こみせ復元は、あくまで所有者の意向によるものではありませんが、これまで地区住民への説明を行い理解をいただいていたことから、近年、少しずつではあります、相談をする方も出てきているところです。車の出入りが必要な店舗など今の修景基準では難しいところもありますが、こみせを市民の財産として整備していくことにより、黒石市を訪れる方々にも喜んでいただけるものと信じております。

今後も所有者と協議しながら予算の確保に努め、保存修理・修景事業を進め、他の文化財と同様ホームページなどでPRと案内を図ってまいりたいと考えています。以上です。

◎議長（北山一衛） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（小林清一郎） 私からは、黒石病院の赤字解消について、まず、赤字解消に向けた対応についてと、それから、待ち時間に関することについて御答弁申し上げます。

まず、赤字解消に向けた対策・対応についてでございますが、今年度の黒字化が難しい要因といたしましては、4月より常勤医師が3名退職した結果、6つあった病棟の1つを休床いたしまして5つの病棟で運営しており、入院収益が減少していることにあります。したがって、まず第一に、より一層の医師の確保策の充実を図ってまいりたいと考えております。医師確保は健全経営の生命線と位置づけ、弘前大学医学部へ医師派遣を強力かつ継続的に要請してまいります。また、病院独自の取り組みといたしまして、昨年には7対1入院基本料の復活、地域包括ケア病棟を稼働させ、入院単価の増収策も講じ積極的に収益確保策を展開しているところでありますが、引き続き患者に対しての医療の質の向上を目指し、あわせて増収を図れるよう努めてまいります。

続きまして、外来の待ち時間解消に対する取り組みについて御答弁申し上げます。

外来における混雑の緩和と待ち時間短縮のため、当院では平成26年2月から内科外来へ予約制を導入いたしまして、その後、整形外科、眼科、外科、脳外科と順次拡大させてきたところでございます。議員御指摘のとおり、予約したにもかかわらず長い待ち時間という御意見を頂戴することもございますけれども、その要因といたしまして、正確に診断し最適な医療を提供するための問診や説明に時間を要することがあります。また、救急患者への対応など突発的な事情も発生する場合などもございます。しかしながら、長い待ち時間が患者の負担につながるという側面もあります。今以上の待ち時間短縮に努めなければならないものと考えております。

このため、医師の増員が直接的に待ち時間解消につながるものでありますので、粘り強く医師確保に努めるとともに、患者の負担軽減につながるような方策を検討してまいります。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 重点事業要望の除雪機導入等の件でお尋ねいたしますけれども、復活ということでありますので、その復活に対してのある程度の希望者というものがあったか、どれぐらいあるのかということをお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 国の経営体育成については、まず復活して、市でもう既に実施している、それから採択時期等もあって、市で実施されたもの以外では、これについてこれで採択されたものはございません。県自体は、この事業はまだ復活しておりませんので、もちろんございません。先ほど答弁で言いましたとおり、それらの要望している人たちに対しては、農家に対しては、市の単独事業である程度対応したということでございます。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） はい、わかりました。

それとですね、次の中学生までの医療費無料化なんですけれども、結果的には県が一生懸命動いたにしても、国が国策として実施しなければならん反映されないということ、ここがやっぱりネックになるわけですので、全国の県、そしてまた市町村が一丸となって取り組むという機運づくりをしていかなければ、なかなかこれは現実的なものにならないと思いますけれども、その件に関してどのように思いますか。

◎議長（北山一衛） 市長。

◎市長（高樋憲） このことにつきましては、全国、まずは青森県市長会、東北市長会の議題として上げさせていただきました。その後、東北市長会でも、それはやはり大切だということ、黒石だけじゃなくですね、他の市町村もみんな同じような状況なものですから、これは国へ上げなければいけないということで、全国市長会にもこの議題を上げ、国に要望させていただいている状況であります。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 推移を見守りたいと思います。

次にですね、西十和田トンネル（仮称）の早期建設についてであります。私も四、五年前、

3年前と4年前ですか、議長をやらせていただいて、国会議員との懇談の場、意見交換の場でこの必要性を訴えたのでありますけれども、やっぱり最終的には県が本腰を入れなければいけない。そうでないと物事は動かないということでありました。この事業自体、要望自体もですね、平成元年から始まって今もう平成27年であります。そういうことを考えたとき、県に対してもっともっとプッシュしていかなければいけないと思いますけれども、市のほうの考えをお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 青森県知事に対する重点事業説明会の回答を受けまして、市といたしましても、要望方法等を十分検討していく、見直す必要があるというふうに考えております。今後、青森県、そして岩手県の関係市町村で構成しております西十和田トンネル期成同盟会の総会や津軽南市町村連絡協議会の構成市町村とですね、さらに青森県に対する重点要望に御協力をいただいております津軽南市町村選出の青森県議会議員の皆様のお意見も十分伺いながら、今後どういう戦略で向かっていけばいいのか検討を重ねていきたいというふうに考えてございます。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 担当部長が変わっても毎年同じような答弁を聞かされているような感じがしてなりません。本当に体を張ってですね、知事のところに直談判に行くぐらいの気持ちがあれば物事は進んでいかなければいけないと思いますけれども、その点についてお伺いいたします。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） この要望につきましては体を張ってということではないと思います。やはり地元の機運を高めていくことも、もっと必要だと思っております。当初、関係した市町村で進めてきておりましたけども、やはり秋田県側、それから1月のシンポジウムでは南部の方たちの御意見も伺った経緯等もございますので、そういうところもですね、さらにもっと広範囲な圏域で機運を高めていけるような、そういう手法を検討してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 同じことのやりとりで終わってしまうわけでありましてけれども、本当に必要とするものはですね、もっと前向きな形でぶつかっていかなければいけない、そうじゃなければ前進はないと思います。もう平成27年、これだけの年月が経過しているわけですので、毎年模索・研究ではなくて、行動・アクションに起こさなければいけないと思います。答弁は要りません。

もう1つですね、主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の緩和についてであります。これもで

すね、市独自で進んできておりますけれども、その後、県のほうでやっていただくかどうかというものは、担保的なものは取ってるかどうかということをお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 担保的なものと言われても、それについては取ってはございませんけれども、県のほうでは橋梁の架設についてはやらないとはまだ申ししておりませんので、今後とも県のほうに強力に事業要望を進めていきたいと考えております。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 今の件でありますけれども、県内の議長会で知事との懇談の折、黒石の代表として議長をやらせていただいた時、強く訴えたのでありますけれども、黒石の八間道路、渋滞云々という緩和的なものというのは、大きい市に比較するとさほどのものではないとは言わないけれども、そういうニュアンスの答弁で、なかなかその後県でやるということのコメント的なものは何もなかったということで、数年前から進むのかなということを危惧して、もっともっと運動を展開していかなければいけないということを述べたいということでありますので、その点について今後も運動展開をもう一度お願いいたします。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） やはり架橋につきましては、開通した際、経済効果とか地域の影響力など将来設計を具体的な数値をもって提示して要望する必要があるがございます。これは、例えば西十和田トンネル（仮称）も同じだと思います。ですので、今後、県に対してもそのような形で推し進めて行きたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） もっともっとですね、担当課が県のほうの担当の方に、まずうるさいぐらい行くぐらいの気持ちで運動を展開しなければ、下手をすればはしごを外されるということもあり得ますので、30年までに向かってもっともっと足を運んで運動していただきたいと思えます。答弁は要りません。

次にですね、大きな2番のふるさと納税についてであります。

特典の導入してということで、私自身はもっともっと寄附額があるのかなという期待感で一般質問に取り上げたのであります。このままで行くと昨年よりは多くはなるというような傾向でありますけれども、よその市を見ると、ことしはこういう返礼品をやるけども来年はこれこれこういう物をふやすとか、数多くするとかって言う考えは黒石市にあるのかどうかということをお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） いまのところ考えてございません。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 先ほど私一般質問でも述べたとおり天童市は11億円、いやこれほど来るといことはないと思いますけれども、やっぱりせっかくチャンスですので、ふるさと納税、寄附者をもっともっと募るような、そしてまたホームページに掲載してるとありますけれども、パソコン持ってる人は見ることはできるかもわかりませんが、私もパソコンはもってません。見ることもできません、わかりません、ということで、ふるさと納税の寄附というものをもっともっとPRしていかなければいけないということだと思います。議会報告会でも黒石はふるさと納税どうなってるんですか、やっていますよ、という答弁してもですね、やっぱり一般の市民は全然わからないというのが現状でありますので、この後、どういう対応・対策取るかっていうことをお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 実は先般、さらなる周知を図るためにインターネット上でふるさと納税の紹介を行っている民間会社のポータルサイトに当市の特典内容等を掲載する手続きをいたしました。掲載料は無料でございます。今後ともできるだけ費用のかからない手法により周知を図ってまいりたいと、そのように考えております。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 1人勝手に考えたのはですね、沖揚平のほうの、などわのコーンとかあります。ある時期的にはこれこれこういうものを返礼品としてありますよというような形とか、例を挙げるならば、これは本来発表してはいけないと思うですけれども、市民文化会館休館しているのは全国黒石市だけですよという、逆に同情をもらうような形のふるさと納税の寄附者を多く集めるというような手法もまたいいのではないかと思いますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 検討してまいりたいと思いますけれども、あくまでも黒石市を思っ  
て寄附していただいた人の気持ちをですね、大切にしていきたい、そのように考えております。  
以上でございます。金額の多寡ではございません。

◎議長（北山一衛） 制限時間が残り5分となりました。御協力願いたいと思います。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 総務部長の答弁している意味もわかります。ただですね、その方の気持ちを大事にしていかなければいけないというのは、それはそれとして、これこれこういう物を返礼品、黒石独自の物、こういうものありますよということで、ふえる分にはそれは別にやぶさかではないと思う。その点の見解の相違があるのではないかとということで、もう一度お願いいたします。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） あくまでもですね、黒石市を思う気持ちを大切にすることです。金額の多寡ではないということ、あくまで申し上げたいと思います。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 私が申し上げてるのはですね、金額が大きい高額者が云々ではなくて、数多くの、低額でもいいわけですよ、数多くの人たちに黒石を理解してもらいたい、黒石のPRを発信してもらいたいということで今述べてるわけですので、もう一度お願いします。

◎議長（北山一衛） 総務部長にお願いします。答弁は質問者の意を酌んで答弁してくださるようお願いしたいと思います。総務部長。

◎総務部長（成田耕作） その件に関して検討させていただきます。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） よろしくお願ひいたします。

次ですね、観光案内所の件であります。一般質問したいということで観光案内所を探しに行きました。なかなかすぐにはわからないというような感じ。多分行ったすぐということで、看板的なものとかそういうものも設置されてないということでもありますので、駅から降りたりとか駅に行くとか案内所があるというような、もっともっとわかりやすい看板、そういう物の考えを持たなければいけないと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 市長。

◎市長（高樋憲） 看板はですね、正面に観光協会さんで黒い看板設置させていただいてるようあります。先般、ある方からiマークというのがあるんだそうですよ。これは全国、万国共通の観光案内所のiマーク。これを取得すればというお話をいただきまして、観光協会さんのほうにもその情報を流させていただきました。今年度は、国の観光庁の締め切りが8月31日であったものですから、今年度は間に合わなかったんですけども、来年度に向けてですね、観光協会さんともその辺を十分情報を交換しながら、世界の方々が訪れてわかりやすい、このiマークをですね、ぜひ取得したいというふうに考えております。

◎議長（北山一衛） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） よりよくなっていくことを期待いたします。

次にですね、黒石病院の待ち時間ということで。私も集団検診の結果で再検のために行かなければいけないんですけども、なんかそれだけでも行く時ですね、時間が結構待たなければいけない。なかなか足が向かっていかないというのが本当の気持ちであります。もっとですね、前には待ち時間云々で50番までとか100番までという番号の札が廊下のほうに、待合室のほうに見えるように掲げてあったんですけども、それも薄らいでしまっているというきらいがありま

すので、時間多く待たなければいけないという時にはですね、看護師さんなり事務の方が、もっとこれこれこういうことでだいぶ時間がかかるよということを知らしめるということが必要かなと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（小林清一郎） 患者の皆様初め市民の皆様には、待ち時間ということで苦情やら御提言ということでさまざまいただいております。

これまで病院のほうといたしましては、その待ち時間対策ということで、例えば待合室にテレビを掲げてみたり、それから無料の医療用のパンフレットなどを置いてその待ち時間対策を行ってきたところがございますけれども、議員御指摘のとおり、丁寧な声がけなど、できる対策からまず初めて、そのほか院内に患者サービス委員会というのがございます、そちらのほうで、より待ち時間の解消に向けての対応ということを細かく丁寧に考えていきたいと思っております。今後とも御理解のほどよろしくお願いいたします。以上です。

◎議長（北山一衛） 時間もまいりましたので、最後許します。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） ありがとうございます。よろしくお願いいたします。以上で終わります。

◎議長（北山一衛） 以上で、15番中田議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（北山一衛） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時53分 休 憩

---

午後 1時03分 開 議

◎議長（北山一衛） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、8番工藤和行議員の登壇を求めます。8番工藤和行議員。

登 壇

◎8番（工藤和行） 津軽平野は一面黄金色、見事に実った稲穂がこうべを垂れ、ことしも収穫の時を迎えようとしております。大きな災害もなく出来秋を迎え、作柄はやや良、豊作であります。この上は高値での取引を願うのみであります。

申しおくれました。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。

今議会におきましても一般質問の機会を与えていただきましたことに感謝しつつ、若干の、もとい、一点だけ質問をいたしますので、真摯なる御答弁をお願い申し上げます。

質問趣旨は1つ、当市の財政について、アとして平成26年度決算を踏まえた今後の展望についてであります。

平成26年度一般会計決算では、実質収支で3億2,000万円ほどの黒字となったこと、7年続け

での黒字決算ということであり、市長以下職員各位の御努力に対し敬意を表するとともに大いに評価に値するものと思います。

そこで、今回の一般会計黒字の要因、背景など、どのようなことであったのか、まずお聞きします。

さらには、気になるポイントである財政調整基金の動き、また、財政指標でも特に注視すべきと思われる実質公債費比率、経常収支比率についてもあわせてお示してください。

また、26年度決算を踏まえたこの部分で、27年度の財政状況は現状どうなっているのかお聞きします。また、27年度で全会計黒字化を目指してきた健全化計画ですが、今決算においても病院事業会計が厳しさを増したと聞いているところでもあり、健全化の達成についてどのように見込んでいるのかあわせてお聞きし、私の壇上からの質問といたします。御清聴ありがとうございます。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤和行議員にお答えいたします。

当市の財政状況について、平成26年度決算を踏まえた今後の展望について答弁させていただきます。

平成26年度決算の概要でありますけれども、一般会計黒字の要因は、市税の増収、特別交付税の増、除雪対策費の支出減、扶助費の支出減などが挙げられます。財政調整基金残高は、26年度末が5億2,727万円で、25年度末から7,407万円の減となっております。財政指標では、実質公債費比率が22.4%とまだ高どまりであり、早期に18%未満にする必要があります。また、普通交付税が大幅に減少したことにより、経常収支比率が100.8%となり、財政の硬直化が進んでおります。今後は、地方消費税交付金の平年度化による増収が見込まれるものの、経常的経費の一層の削減に努める必要があります。

次に、平成27年度の状況であります。一般会計は今議会に提出した2号補正後の財政調整基金残高が5億633万円で、年度当初からは改善してきましたけれども、今後の補正要素もあり安心できる状況ではありません。

全会計の赤字解消につきましては、病院事業会計を除いてめどがついたと考えております。しかし、残念ながら病院事業会計は、経営環境の悪化から従来の計画以上の資金不足の発生が避けられない状況であり、経営改善に一層取り組んでいるところであります。私からは以上です。

降壇



◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。8番工藤和行議員。

◎8番（工藤和行） ただいま答弁ありがとうございました。

決算及び27年度の現状につきまして、一般会計黒字とはいえ大変厳しい状況に変わりはないということを確認されるような内容でありますけれども、再質といたしましてはですね、27年度から先の平成28年度以降に想定されているいわゆる大型事業、小・中学校の適正配置に関するもの、また、給食の実施に関する事、また、耐震診断を実施した後の市役所庁舎の問題、また、市民文化会館など考えられると思いますけれども、これを財政的見地からは、実現性、どのように考えているのかお聞きします。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 財政運営計画では、平成31年度までに実質公債費比率を18%未満とすることを目標にしております。これが守られない場合には、普通建設事業の起債ができなくなることも考えられます。このため、事業実施の年度、規模の決定は慎重に検討しなければなりません。さらに、ランニングコストや老朽化した既存施設への対応など、考慮すべき要素も多々ございます。実現に向けての検討は絶えず行っておりますが、現段階で明言することはできないことを何とぞ御理解をいただきたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 8番工藤和行議員。

◎8番（工藤和行） なかなか、はっきりと言ってしまうとそれが先に走っていく、そういう状況は理解できるところでありますけれども、先ほど言った中でも、特に学校の統廃合に関するものなどは、この計画といいますか、今まで言ってきた中におきましても、32年度には計画上統廃合して新規の開校をしたいというところでもありますので、その部分についても、もう後数年という期限があるわけでありまして、どのように考えているのか少しお聞かせいただきたいと思っております。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 統合校のことでございますけれども、開校までのスケジュールからいきますと平成28年度に基本設計に取りかかる必要がありますので、28年度の当初予算編成の中で事業化に向け十分に検討を行っていく考えであります。以上です。

◎議長（北山一衛） 8番工藤和行議員。

◎8番（工藤和行） 28年度からそのような、計画ではそのようになっていると思っておりますが、実際財政を伴ってくるのが29、30、31年度というところでもあり、現在この大変厳しい財政状況の中、やらないわけにはいかないものもあると思っております。ただ、さまざま想定されているもの

の優先順位もしっかりと考慮しながら、財政をまた後退させるわけにもいかないと私は思いますので、その辺もしっかり考慮に入れながら、さらにはそれぞれの担当部局ともしっかりと議論しながら、実施に向けて頑張っていたきたいと。何かあれば言っていただいても結構ですが、以上で終わります。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） これまでも何度も厳しい財政環境の中で大型事業を進めて行く場合ですね、何が優先順位の高いものを選択していくかということに最終的になってきます。そういう面で、議員の御意見も十分承知してございます。そういう観点から、十分総合的な見地から判断してですね、市民のためにつながる事業に向けて基礎となる財政環境を整える努力もまたしていかなければならないというふうに思っております。いずれにしましても、懸案事項をですね財政面からもしっかりと支えていけるように環境を整えてまいりたいというふうに思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 以上で8番工藤和行議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（北山一衛） 次に、13番工藤俊広議員の登壇を求めます。13番工藤俊広議員。

登壇

◎13番（工藤俊広） 自民・公明クラブの工藤俊広でございます。第3回の定例会において一般質問をさせていただきます。

まず初めに、地方版総合戦略についてお聞きいたします。

新聞報道で先ごろ地方創生枠の概算要求が掲載されておりました。人口減少対策の関連事業として538億円増の7,763億円、16年度新設の新型交付金が1,080億円で、総額8,843億円となる見込みとのことであります。1,618億円の増額で、事業費ベースでは1兆円を確保するというものでありましたが、期待が大きかっただけに国に対して物足りなさを感じております。このような現状の中、地方版総合戦略の策定期日の期限が迫っておりますが、当市の取り組みの現状がどのようになっているのかをまず伺っておきたいと思っております。

次に、今後の方向性についてお聞きいたします。

今議会の決算特別委員会終了後、黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案が、また、黒石市人口ビジョン中間案についての議員全員協議会が開催されることになっておりますが、当市が立ち向かうべき課題をどのように捉えて総合戦略に反映されているのか、タイムスケジュールとともにお聞かせください。

次に、クラウドファンディングの取り組みについてお聞きいたします。

ふるさと納税に対するさまざまな評価が話題となっている中、新たな資金調達の方法として

クラウドファンディングが注目されております。やりたい事業の実現のため、インターネットを通じて事業への賛同を呼びかけ、小口の出資を幅広く求めるものであります。事業者からは出資者に対して何らかの利益を還元し、クラウドファンディングを運営する事業者も事業を告知することでさまざまな利益を得るという資金調達の仕組みであります。大きく分類すると、事業主が民間のものと自治体が事業主となるものに分かれると思います。新たな取り組みではありますが、当市のクラウドファンディングに対する認識をお尋ねいたします。

次に、自治体の実施状況についてお聞きいたします。

私が調べた中では鎌倉市、大阪府、夕張市が既に取り組んでいるようであります。その詳細については把握できておりませんので、現在どのような状況か、取り組みの実績や他の自治体での取り組みの情報がありましたらお知らせいただきたいと思います。

次に、調査研究についてお聞きいたします。

今回取り上げたクラウドファンディングは、国でも推進を働きかけている方法でもあり、資金調達の目的がはっきりしていることと、ふるさと納税のように過剰なサービスの提供にはならないと考えます。また、自治体がかかわることで出資する側の信頼を得ることにもつながります。さらに、財政問題でできない自治体の事業をクラウドで始めることも可能であると思います。当市の取り組むべき課題の一つとして、クラウドファンディングの調査研究をしてみてもどうかと思いますが、いかがでしょうか。

続きまして、18歳投票権についてお聞きいたします。

来年の参議院選挙から18歳の投票権が認められることになりました。そこで、当市の平成28年から投票が認められる新有権者の人数をお知らせください。さらに、当市から就職、進学などの人口移動を予測した人数がわかりましたらお知らせいただきたいと思います。

次に、今後の取り組みについてお聞きいたします。

新たな有権者に対する意識啓発は、マスコミや教育の現場などでも力が入れると予想します。若者の意識調査でも、初めての選挙で投票を行った人は、その後の選挙においても選挙に対する意識が高く、投票行動にもつながっているという調査結果が出ております。このようなことから、初めての選挙に対する取り組みは大変重要であると思います。当市の選挙管理委員会として、18歳選挙権に対してどのようなことを考えているのかお聞きいたします。今回の問題を議会だよりでも取り上げさせていただき、高校の校長先生や生徒さんたちからも直接意見を伺いました。内容に関しては議会だよりをお読みいただければと思いますが、総じて感じたことは、選挙に対する意識は持っているけれども誰に投票をするのかを決める情報に接する機会が少ないので、もっと気軽に情報が得られる環境が欲しいということでありました。そこで若者からの意見として、携帯電話からの情報の入手、コンビニなどでの意識啓蒙、PR

ソングやイベントの開催などという意見が出ておりました。このようなことを踏まえて本市としてどのようなことが考えられるのかをお聞きいたします。

最後に、市民文化会館の一部再開についてお聞きいたします。

市民文化会館が休館してから7年の時がたちました。市民文化会館の全館再開は財政上無理なことを踏まえ、市民の希望に少しでも応えていきたいとの思いから公民館部分の一部再開を検討しているという現状であります。先日開催された議会報告会においても文化会館に対する質問が出ました。休館していても経費がかかるのか、一部再開でいくらかかるのか、運営していくためにどのくらい経費がかかるのかなどの質問が出ました。さらに、私のほうから30人ほどの出席者の皆さんに対して質問を投げかけてみました。というのも、最近、市民の皆さんの意識が変わってきてるような感じを受けているからであります。

質問の内容は、一部再開であれば無理をして再開しなくてもいいのではないかと、全館の再開でなければ意味がないと考える意見がありますが、皆さんはどう思いますかといった趣旨で聞いてみたところ、一部再開に賛同された方は30名中2名でありました。そのほかの方たちは全館再開を望んでいる状況だと捉えました。そこで、市民文化会館一部再開についての意識調査の必要性を感じた次第であります。市民が希望していることと市がよかれと思って進めようとしていることのマッチングにずれが生じているのではないかと感じてきたからであります。そのためにも、市民が再開に向けた判断のできる情報提供を財政状況や修繕費、再開のランニングコストなどを踏まえた上で一部再開に向かうべきなのか、市民の皆さんの意識調査を行ってみてはどうかと思っておりますがいかがでしょうか。

以上で壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤俊広議員にお答えいたします。

私からは、地方版総合戦略についての取り組みの現状、今後の方向性について答弁させていただきます。

まち・ひと・しごとの創生は、人口減少克服と地方創生を合わせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指すものであります。進捗状況としては、ことし6月に黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を設置し、これまで審議会及び作業部会をそれぞれ3回開催し作業を進めているところであります。

次に、今後の方向性につきましては、国のまち・ひと・しごと創生の動きは人口減少の克服に向けて取り組むものであり、第5次総合計画で示している人口減少対策の取り組みと一致し

ていることから、本市の総合戦略は、総合計画のうち人口減少対策に係る数値目標や具体的な施策の展開方向等を示した実施計画と位置づけています。また、人口減少対策として一番効果が見込める仕事づくりに力を入れた戦略を考えております。

最後に、策定までのスケジュールであります。9月16日に議員全員協議会を開催いただき、10月6日に第4回総合戦略審議会を開催する予定です。その後、審議会で素案がまとまり次第、パブリックコメントを実施した上で、審議会から総合戦略案についての答申を受け、本年度のできるだけ早い時期に本市の総合戦略を庁議において決定する予定であります。私からは以上です。その他につきましては関係部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（北山一衛） 選挙管理委員会委員長。

◎選挙管理委員会委員長（乗田兼雄） 私から、工藤俊広議員の18歳選挙権に関して、今後の取り組みについて、高校生の現場での市選挙管理委員会としてできることはないかとの質問にお答えいたします。

来年の参議院議員選挙から18歳選挙権が適用される予定になっておりますが、高校生の選挙啓発は県選挙管理委員会が行っており、今のところ市選挙管理委員会では高校への選挙啓発をした実績はありません。なお、18歳選挙権への対応としましては、総務省と文部科学省が連携・協力して、主権者教育のため高校生向けの選挙に関する副読本を作成し、各高校に配布することになっております。

啓発活動につきましては、小・中学校の対応にあわせて、県選挙管理委員会などと連携しながら取り組んでいきたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 政策連携推進監。

◎政策連携推進監兼政策連携推進室長（種市齊） 私からは、工藤俊広議員の御質問、クラウドファンディングの取り組みについてお答えしたいと思います。

まず、本市の認識についてでございますが、ソーシャルネットワークサービスを活用したクラウドファンディングは、不特定多数に出資を呼びかけることが特徴でありまして、自治体にとってもふるさと納税同様、善意の寄附と財源を結びつける新たな手法であると考えております。しかしながら、特定の事業に対して寄附を募ることから、いかに共感できる事業やプロジェクトを提示できるかということが重要であるということや、目標額を集めることができなければ、信頼を損ねるおそれもあるなどの課題も想定されますので、本市では現時点では具体的な活用の検討にまでは至ってございません。であります。近年ふるさと納税の浸透など、自治体に対する寄附行為の関心が高まっている状況もございますので、募集の対象とする事業によっては活用の可能性がある仕組みではないかと考えております。

次に、他自治体の具体的な実施状況でございますが、自治体がクラウドファンディングを活用している事例はまだ全国的にもそう多くは見られませんが、神奈川県鎌倉市では、議員もおっしゃったように観光施設の整備を目的に寄附を募り、市内の観光案内板を整備しております。この資金の目標額は100万円だと聞いております。また、同じ神奈川県の藤沢市では、図柄入りの原動機付自転車用ナンバープレートを導入するための費用を、目標額をこれも100万円として募集しております。さらに大阪市では、大阪城の展示施設の充実ために、太閤なにわの夢募金と称したプロジェクトの資金を平成25年度から28年度の期間で募集しております。この目標額は5億円だと聞いております。

その他では、北海道夕張市のように市が直接に事業を行うのではなく、市民団体等に対してクラウドファンディングの仲介業者を紹介するなどの支援を行う例も見られます。この制度は、市民団体による市有グラウンドのサッカーゴール、この整備に充てられたものであります。

次に、調査・研究についてでございますが、自主財源に乏しくなかなか新規事業に着手できずにあります本市にとっては、新しい財源確保策の1つではないかと考えております。

実際の導入に当たっては、出資者に注目してもらえるような魅力的な事業の提案や市の知名度向上が不可欠でありますので、政策立案能力やシティプロモーションの強化といった体制づくりを含めて、総合的な広報発信戦略とあわせて検討したいと思っております。また、夕張市のように、市民団体とクラウドファンディングを結びつける支援をする手法もありますので、民間の事例を含め先進事例の情報を収集して、どれが黒石にとって一番最適なのか研究してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（玉田純一） 私からは、市民文化会館の一部再開について、意識調査の実施についてお答えいたします。

教育委員会では、これまで市民文化会館黒石公民館部分の一部再開に向けて工事費及びランニングコストの試算を行い、検討状況や試算額などは本市の最高会議である議会答弁内容のとおりですが、今後は、関係部署と連携を図り、広報やホームページを活用し広く市民へ情報提供してまいります。

また、市民文化会館黒石公民館は、本市の教育及び文化の振興にとって重要な拠点であることから、施設の一部再開は当市の重要課題として位置づけ、財政状況を考慮しながら多方面にわたり検討しているところです。

このことから、意識調査の実施については今のところ考えにくい状況ではありますが、市及び地区公民館などが開催するイベントや集会など市民が集まる場を活用しながら意見を伺い、参考にさせていただきたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（山谷博文） 私のほうから、18歳選挙権のことについて、平成28年度の該当者数、そして、今後の取り組みについての中で、携帯電話やネットなどを使った情報発信、アピール等についての2つについてお答えいたします。

初めに、平成28年度の該当者数ということで、来年の参議院選挙における18歳・19歳の黒石市の該当者数でございますけれども、該当者数は選挙執行時期によって変動いたしますけれども、平成27年の2月末の年齢別人口統計表から見ますと、17歳・18歳の人数は、17歳が429人、18歳が405人となっております。合わせて834人となっております。

来年度の減少率も含めた人口推移ということですが、過去5年間平均の減少率を調べたところ、17歳から18歳まで約1%、18歳から19歳までが約16%となっております。減少率を見込んだ数値では、該当者数はおよそ、合わせてですけども760人程度と見込まれます。

次に、携帯電話やネットを使った情報発信等について、できないかということですが、国政選挙などでは選挙啓発の一環としてインターネットを活用した特設のホームページを開設して情報発信しております。市議会議員選挙や市長選挙ではホームページには立候補者名を掲載などしておりますけれども、今後は選挙公報などを掲載するなど情報提供に努めてまいります。平成25年からインターネットを用いた選挙運動が解禁されておまして、その中で、政党や候補者がホームページやブログなどのサイトを開設するなどして、ネットを利用してできる選挙活動がふえておりますので、有権者が投票するための判断材料になるのではないかと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 答弁ありがとうございました。

そうすれば、まず順番に、地方版総合戦略についてでありますけれども、現状として3回の審議会部会を開いて現在に至っているということでありましたけれども、おおまかな議論の内容とか、ちょっと個別であまりばふらつとしてなかなかつかみどころないのかもしれませんが、闊達な議論が行われたんでしょうか。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 事前に資料は渡してございますので委員の皆さんに、そしてアドバイザーの方もですね2人入ってございます。多種多様な、これまでにない、金融業界だとかですね、それから労働組合の関係、それからマスコミからも入ってございます。そういう面で、全くこれまでのような、産学官のような範囲を超えてるわけですし、企業の経営者の方も入っ

でございますので、いろんな方角から議論されてございます。まだまだ途中ということで担当のほうでは受けとめてございまして、16日にお示しして御意見伺うこととなりますけども、今後もさらに議員のお考えをさまざまアドバイスをいただきながら、それらを反映するとともに、審議会の中でもさらに議論を深めていきたいと。そういうふうにご考えてございまして、大変皆さん非常にお忙しい方たちばかりです。そういう中でいろいろ黒石のことを、黒石の特徴が出るような、黒石らしいものにしようということで御協力をいただいております。そういう状況でございました。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 黒石らしいということを出して行こうというのが出たというお話でありました。問題点を洗い出して、それをどうこの総合戦略に反映していくのかっていうところが私は大事なことでないかなというふうに思っていましたけれども、黒石市の問題点として、今後のところにもつながっていきますけども、先ほど市長のほうからは、人口減少対策が取り組むべき重要課題であって、その中身としては、仕事づくりが大事なんだという答弁でありました。では、その仕事づくりの具体的なビジョン、そういったものはどういったことになっているのかお聞かせいただきたいと思えます。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 今ここに資料を持ってございません。16日に詳しく資料を見ていただきながらこれまで考えていることを詳しく御説明したいと思っております。子育ての環境だとか、それからその他の課題もいっぱいございますけども、やはり共通するのは最後仕事なんです。仕事が地元で、仕事したくてもそれができない。高校終わってから20代前半の流出の人数、パーセントというのは非常に大きいです。ですので、そこが最大のポイントだろうというふうに思っております。もちろん仕事づくりだけではございません。ですから、広範な結婚、婚活関係だとかですね、さまざまな部分についてもしっかりサポートしていけるような、そういう戦略づくりに向けて今作業を進めているところでございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） ありがとうございます。

詳細は16日ということでありまして、人口ビジョン、その中でも子育てであったり雇用の創出であったり、いろんなものがあるのはわかってますけども、そういうところを踏まえ、雇用の創出っていうのは簡単なお話しでもないし、いろんな検討がなされた中で、地場産である農業をどう強くしていくのかっていうところも非常に大事な面であるのかなというふうにも思っておりますので、詳細はまた16日の全協でお伺いしたいと思いますので、総合戦略についてはその16日に譲りたいと思えますけれども、自主財源の確保、若者の定住、それから子



育て支援、雇用問題、やはりこれが私は問題であるというふうに思っております。

では次、クラウドについてであります。

認識としては、リスクがあって黒石のイメージが低くなる可能性もあると、で、企画力が大事であるというところで、結果、調査研究はしてみたいというようなことだというふうに思いました。先ほどのふるさと納税に関する質問にもありましたけれども、とにかくふるさと納税はサービス過剰だなというところも出始めているような私は意識も受けてました。集まったお金以上に還元していくものが大きくなってしまっているところもあるんでないかなぐらいの過剰なサービスもあったりしています。ただ、クラウドは目的がはっきりしているわけでありまして、先ほど理事者のほうも企画力が大事だという、まさしくそのとおりだというふうに思うわけでありまして。そこで、これは提言でとめますけれども、例えば事業を職員の皆さんに募集をかけてですね、企画を、多分皆さんの中にも、「こういったものやってみればどんだべ」とかかっていうチャレンジ精神っていうのはあるのではないかなと。ただ、金がないから何もできないっていうその意識から、金を集めてでもやるんだぐらいの発想で、このクラウドを使ってですね、新規事業をなにかしらチャレンジする、職員のチャレンジ枠みたいなものを設けてみてはどうかという、こういった提言をさせていただきたいというふうに思います。

18歳選挙権に移ります。

該当者、新規の有権者になる方が834名いらっしゃる。人口流出を考えても760人ぐらいの新たな有権者が来年の参議院からは誕生するであろうというふうな予測であります。そこで、県と総務省、それから文科省のものに当市の選管としては委ねるという具合の答弁だったというふうに思うわけでありまして。確かにおっしゃるとおりのところもあります。でも、本当に黒石として何かできることがないのかなっていう、それは先ほど壇上でも述べましたとおり、高校生の皆さんから、こういうことしてほしい、こういうことできないでしょうかという、そういった問いかけに対して、それは県の選管がやることであって、文科省がやることであって、総務省がやることであって、当市は関係ありませんということにはなかなかならないのではないかなというふうに私は思っております。それで、この前行われました青森県知事選挙です。選挙へGOっていうPRソングをつくって披露したのは当市の鉄マンであります。黒石市が県知事の選挙の広報にああやって一役買っている状況があるわけでありまして。そして高校生からは、高校生が集うのはやっぱりコンビニだと。なのでコンビニでのそういった広報活動何かできないのかと。そしてまた、若い人たちが集うようなイベントを仕掛けられないものかという、そういった問いかけがあったわけでありましてけれども、当市が単独でそういった広報PRする、国政の前においての予算っていうものは取れるもんなんですか。そこをちょっと伺いたいと思います。

◎議長（北山一衛） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（山谷博文） 啓発に関する費用ということでございますけれども、国政選挙でほとんど総務省とかが啓発行っておりますので、市のほうに来る予算としては、今までの実績とすれば、参議院選挙で8万2,000円、衆議院で8万4,000円というふうになっております。そのほかは執行経費という形で来ております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 過去にはこの8万2,000円、8万4,000円はどのように使われていたんでしょうか。

◎議長（北山一衛） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（山谷博文） 啓発活動といたしましては、選挙期間中における広報車で回ったりとかですね、あと、ティッシュペーパーとか啓発景品の配付というような形でそちらのほうにお金を使わせていただいております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 本当に申しわけない予算の中での要求であって心苦しいところも多々ありますけれども、協力体制はつくってもらえる可能性があるのではないかなと、こういった広報関係で。無償でもいいよ、黒石頑張れっていうふうに言ってくれる方がいらっしゃるのではないかなというふうに思いますので、このSNSやコンビニ、そしてPRソング、それからイベントの開催、こういったものにちょっと取り組んでいただく余地を、ぜひとも検討していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 選挙管理委員会事務局長。

◎選挙管理委員会事務局長（山谷博文） 高校生の選挙啓発ということで、まず、今現在情報として副読本の話はされましたけれども、今のところ12月に配布されるという市のほうには情報が入っております。やはり県のほうで行っているからと言って市のほうで何もしないのかというふうな形も聞かれますので、現在、今10市の中で、10市の県の都市、選挙管理委員会の連合会という構成する団体があります。その中でですね、県だけではなくて高校への啓発をどのようにできるかというようなことを、協力してできるのかというのを、現在そういう中で話し合っていきたいということで予定しております。そういう部分では各都市との選管との情報共有しながらですね、黒石市でもどういう形でできるのかというのを検討していきたいというふうに考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 選管を責めるわけではありません。青森県が最低の投票率であるのは、政治に魅力がないからだというふうな、本当に厳しい御指摘も多々いただきながら、でも、なお

かつできることもあるんじゃないのかなという、そういった観点で今回、高校生自身からのいろんな意見を聞きましたので、ぜひともお伝えしたいと、そういった思いで取り上げさせていただいた次第であります。

それでは最後、文化会館の再開の意識調査ということについてでありますけれども、基本的には考えていないと。市の重要課題であって、文化教育施設としてのその思いはわかった上で、先ほど工藤和行議員から公債費比率18%に至らなければ次の起債を起すことはできないんだよといったときに、優先順位をつけていかなければいけないと。その中に文化会館の一部再開も含まれるのであれば、これ意識調査をしてみてもいいのではないかなというふうに思いますけれども、再度答弁をお願いしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（玉田純一） 先ほども答弁でお話ししました、今、議員もおっしゃいました優先順位という部分では、教育委員会の中では上位にある、市の全体となるとまた別の話にはなると思うんですけど、私ら教育委員会としては、例えば学校の話、文化会館の再開については重要だと考えております。そういう観点から今のところは意識調査については考えにくいという答弁になりました。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 教育委員会も財政もみんなで共有して、黒石市全体像をどうするのかっていう意識に立っていただかないと、やはり優先順位をつけるのは、最終的には全てを統括する市長ですよっていう、で、それを議決する議会ですよっていうことでよくなっちゃいますよね。

それよりも、こう思うけれどもこっちのほうが優先順位として高いんじゃないですかと、その判断基準の一つに市民の皆さんの意識調査っていうのはそんな難しいことなんじゃないでしょうか。答弁でもイベントとか集会とか、ことあるごとに聞いてみたいとは思いますが、その市民の皆さんが判断する材料でありますよね。それはあそこに出ていますとか、ここに出ていますとかっていうことではなくて、再開に向けての検討委員会も開かれて、さまざま経費についても圧縮をかけて、状況の、その変わった状況っていうのは、実は市民の皆さんには広く広報されていない、そういった中で一部再開というものを判断しろというふうな情報の発信の仕方だと、これは間違った情報の発信になってしまうと思います。ですから、判断基準がちゃんと持てる情報提供をした上で、その次の段階で意識調査をすべきではないのかなと。もしくは、それを合わせたペラの一枚の紙でもつくれると思うんですよ。それを、例えばりんごまつりでアンケート調査するなり、地域別にやってみるなり、そういった方法は検討してもいいのではないかなというふうに思いますけれども、ちょっとくどくてすみません。よろしくおねがいします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（玉田純一） 議員のおっしゃるとおり、いろんな集まりの場所で調査という形は取れると考えております。ただ、教育委員会の中では市内一斉にという、そういうのは教育文化の中で、ぜひ必要な施設だという思いがありますので、市内一斉というのは考えにくいという答弁になっております。でも、答弁の中でも最後まで結びました、いろんな場所で、紙での、それがどういう形になるかは今ちょっと言明できませんけれども、機会を捉えて意見並びに要望というか、そういうのを集めてみたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） それでは、意識調査は行くと、ただし、市内全域では行うことはちょっと教育委員会としてのメンツもあるという、そういったことだと理解したいと思います。

私も文化は大事だと思っています。教育も大事だと思っています。文化会館も必要だと思っています。でも、施設の現実、再開というものに財政を勘案したときに、今じゃないんじゃないかなという意識が、私もそういうふう感じてきているところもありますし、市民の皆さんもそういうふう感じてきている、そういった感じを受けていましたので、今回このようなお話をさせていただいたところであります。願わくばという、その思いはみんな共通だと思います。そこでも、それをぐっと飲み込んで今の今まできているのが黒石市の現状であります。さらなる皆さんの意欲と活力、そして市民の皆さんに希望を与え続けていただける、そういった黒石市でありたいことを望みまして質問を閉じます。ありがとうございました。

◎議長（北山一衛） 以上で、13番工藤俊広議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（北山一衛） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時00分 散 会

---

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成27年9月10日

黒石市議会議長 北山一衛

黒石市議会議員 佐々木 隆

黒石市議会議員 工藤俊広